

新年賀詞交歓会を開催

一般社団法人電池工業会は、平成26年1月10日東京プリンスホテルにて「平成26年新年賀詞交換会」を開催した。また、これに先立ち同会場にて「平成25年度優良従業員表彰式」を実施した。

一般社団法人電池工業会 依田会長挨拶



始めに、過去5年間の国内市場における電池の販売量の推移についてお話ししたいと思います。機械統計によりますと、一次電池は、7年前になりますが、2007年に販売個数が43億個でございました。それが、2012年には29億個と数量は激減しております。長期的な需要減が続く中、震災後に懐中電灯用の大型の乾電池の特需が一時的にあったものの、2012年はその反動もありまして大きく個数を減らすこととなりました。また、二次電池は、同じく2007年に販売個数18億個であったものが2012年には16億個と減少しています。自動車の生産台数の落ち込みに伴う鉛バッテリーの販売個数が減少したことに加え、国

際的な競争が激しいリチウムイオン電池の個数が減少したことが影響いたしております。このような中で、ニッケル水素電池におきましては、乾電池代替品あるいはハイブリッド車用として数を増やしております。2013年においても電池全体での数量は減少傾向ではありますが、自動車用バッテリーについては国内での新車生産が好調なことに支えられ、販売個数はほぼ前年並みに落ち着いているというような商況でございます。

金額面では、一次電池は、2007年度比で減少致しましたが、二次電池は増加致しました。民生用は物量減を反映して、厳しい状況が継続しておりますけれども、ニッケル水素電池はハイブリッド車用として大きく増えましたし、車載用リチウムイオン電池も2013年に採用が拡大致しました。加えて、2013年は円安が主原因で民生用もやや持ち直しています。鉛電池は数量と同様の傾向で、他の二次電池に比べると安定いたしております。

次に蓄電池戦略につきまして述べさせていただきます。民生用マーケットは長期的に減少・縮小している傾向であるかのように申し上げました。しかしながら現在、分散電源の促進を実現させるために、電池はなくてはならないキーデバイスであること、並びに近い将来大きなマーケットに成長することが予測されていることは、ここにいらっしゃるすべての皆様が認識されていることと思います。経済産業

省の蓄電池戦略での試算に拠りますと、2020年には世界の蓄電池の市場規模は20兆円、そのうちの10兆円を日本企業が占有するという目標となっております。

特筆すべきはこの10兆円のうち6兆円が電力系統用・定置用の蓄電池という、現在はまだ量産化が始まったばかりの新しい用途での需要拡大が予測されていることです。電池はこれまでも電池を使うアプリケーションの開発や発展に伴い、マーケットを獲得し需要を拡大してまいりました。いままさに新しいアプリケーションのマーケットが大きく成長しようとしているところであります。電池メーカーならびに電池工業会としてもこうした新しいアプリケーションを育て、マーケットを拡大し、販売統計のグラフを右上がり、上昇方向に転じるように、努力を積み重ねてまいりたいと考えています。実際に、家庭の定置用電源が補助金の効果もありまして、今年度には300億円程度の市場に成長することが見込まれております。これらに加えて、従来から実績を積み重ねている産業用鉛蓄電池、アルカリ蓄電池においても、非常用電源等の他、自然エネルギー関連需要に対応できるよう努力しているところでございます。

次に電池工業会の取組をいくつかご紹介したいと思います。まずは、安全啓発活動の状況でございます。電池工業会は長年にわたり、「電池の安全で正しい使い方」と「使い終わったあとのすて方」につ

いて、一般消費者の方々への啓発活動や電池に親しんでもらうための様々な活動を行っております。具体的には「電池フェスタ」などのイベントや「手作り乾電池教室」などの出前授業を通じて、小中学生ならびにそのお父さんお母さんに啓発活動を行っております。「電池フェスタ」は、15年前から開催しており昨年は東京・神戸・福岡の3カ所で開催、約3,200名の参加者がございました。また「手作り乾電池教室」は、夏休み期間を中心に、全国24箇所で開催。約1,000名の小中学生の参加者がありました。また、一般消費者向けの小冊子「WE LOVE DENCHI」は、小学生でも電池のしくみや使い方などを理解してもらえるように作成しており、毎年改定版を発行しております。昨年は約9,000部を電池工業会が開催したイベント等で配布したほか、ホームページにも掲載いたしております。是非一度ご覧ください。この他にも、啓発用のポスターや新聞・雑誌等でのPRクイズなど様々なメディアを使った啓発活動を行っております。

次にリサイクル活動の状況でございます。電池工業会では使用済電池の再資源化に対する活動にも注力をしています。マスコミや消費者団体等からの問い合わせに真摯に対応するとともに、HPへの掲載や啓発ポスターやPRツールの作成・配布、イベントなどを通じてリサイクルの促進・回収率の向上につながる活動を行っております。

腕時計などに使われる酸化銀電池などのボタン電



池などは、回収を行い水銀の適正処理を行っております。小形充電式電池については関連団体のJBRC、自動車バッテリーなどの鉛蓄電池については、鉛蓄電池再資源化協会による回収・リサイクルの推進活動に協力しております。

また、定置用の大型リチウムイオン電池のリサイクルについては審議を開始いたしました。電力貯蔵や家庭用などの大型リチウムイオン電池の需要拡大に向けて、近い将来発生する使用済みリチウムイオン電池の適正な回収・処理方法について、関係省庁や関連団体との情報交換を行っております。

さて、一部の電池系では海外製との熾烈な競争や、海外への生産移転などにより、苦戦を強いられているものもありますが、自然エネルギーの導入促進、スマートグリッドの検討、安価な夜間電力の利用推進など、新たな用途に対応した電池の研究・開発・量産が進められており、様々な分野においてキーテクノロジーの一つとなる電池への注目がますます高まっております。こうした状況の下、電池工業会に対する関心も高まっております。会員も昨年1年間で8社増加し、97社となりました。電池工業会では、この社会的要望に応え、未来社会に貢献できるよう、これからも会員各社一丸となり全力で取り組んで参る所存です。今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

会員会社様の益々のご発展と、皆様方のご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

経済産業省商務情報政策局情報通信機器課 荒井勝喜課長挨拶



先ほど、依田会長から明るい話をご紹介されました。電池というのは、私どもの蓄電池戦略、昨年の成長戦略・日本再興戦略の中でもしっかりと位置付けられており、これからのエネルギー社会、それから次世代自動車においてキーデバイスとなる非常に大事な戦略的な商品であると思っております。日本の技術は先行してございまして、これからグローバル競争で是非勝ち抜いていっていただかなければならない、そういうものと認識しております。経済産業省としても全面的にサポートをしていく所存でございます。

安倍政権が発足しまして1年強がたちました。昨年は株価が大幅に上昇しまして、為替も100円台半ばまで戻しております。デフレの脱却というのも大分見





えてきたように思っております。今年はしっかりと景気回復・経済成長というのを皆様方が実感できるように根付かせいくという大きな飛躍・発展の年にしたいと思います。

昨年10月に1兆円規模の減税を消費増税と合わせて発表させていただきました。12月には追加の経済対策5兆円も策定いたしました。今これらの執行に努めているところであります。そうした中でも、電池の関連では補正予算におきまして、百億円の蓄電池の導入補助金を確保いたしました。このできるだけ早期の執行にできるだけ努めたいと思います。是非、皆様方にご活用いただき電池事業の発展につなげていただければと思っております。

それから、昨年の秋の臨時国会では、「産業競争力強化法」を成立させました。この中では、企業実証の特例制度、グレーゾーン解消制度といったものを盛り込んでおります。皆様方の電池の生産にあた

りまして様々な規制がネックになることがあると思います。そうした場合には、こういう制度をご活用いただきにより円滑に電池の生産ができるように、経済産業省としてもサポートしていきたいと思っております。またグリーン投資減税の対象にも蓄電池は昨年位置づけさせていただきました。こういったものもご利用いただき電池の生産を発展させていただければと思っておりますし、さらには電池工業会と一緒に取り組んでおります日本の優れた基準を国際標準にする動き、これも今年は是非経済産業省と電池工業会で加速させていければと思っております。

また、乾電池につきましては、先般の震災以降、大変重要な物資であるということが国内でも認識されております。強靱な防災対策の観点から、皆様方には、ぜひ安定供給に努めていただきたいと思います。

最後になりますが、電池工業会、日本経済全体の今年の発展、会員企業の皆様方のご活躍・飛躍、今日ご参集の皆様方のご健康・ご健勝を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。本当におめでとうございます。

引き続き和田副会長の音頭で、電池工業会の慣例となりつつある「右肩上がり」のポーズで乾杯を行ない、会は活況を呈した。賀詞交歓会は、正賛会員各社、関連企業、関連団体などの関係者約350名の出席を得て、終始活発な雰囲気で行われ、種茂副会長による中締めで、盛会裏に終了した。

以上



優良従業員表彰

新年賀詞交歓会に先立ち、平成25年度優良従業員の表彰式が行われ、依田誠会長より各受賞者に賞状と記念品が授与された。

今回受賞の榮譽に輝いたのは、次の12社14名の方々です。

受賞者（順不同、敬称略）

佐々木 要 (NECエナジーデバイス株式会社)	馬場 衛 (ソニーエナジー・デバイス株式会社)
小出 厚志 (FDK鳥取株式会社)	村田 衛 (ソニーエナジー・デバイス株式会社)
田島 英一 (FDKトワイセル株式会社)	兼城 泰行 (東芝ホームアプライアンス株式会社)
高橋 猛 (株式会社GSユアサ)	松井 正敏 (パナソニックストレージバッテリー株式会社)
森田 和彦 (株式会社GSユアサ)	田中 久夫 (パナソニック株式会社グループ 三洋電機株式会社)
古谷 太一 (新神戸電機株式会社)	津曲 孝信 (日立マクセル株式会社)
三浦 弘靖 (セイコーインスツル株式会社)	齋藤 悌吾 (古河電池株式会社)



第69回二次電池第2部会を開催

平成25年12月5日、湯浅部会長（パナソニック株）を議長に、第69回二次電池第2部会を開催した。冒頭に部会長および専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。



1.湯浅部会長挨拶

二次電池第2部会の対応する領域は従来のPC、携帯から車載、産業用へシフトする大きな流れがあり、動きが更に活発化している。本日は短い時間ではあるが、しっかりと対応していきたいので協力をお願いします。

2.淡路谷専務理事挨拶

最近の展示会で、電機業界と自動車業界の垣根がなくなってきたと感じた。電池がその仲立ちをしていると思う。電池工業会の果たす役割は大きい。それを反映してか賛助会員の入会希望が増えており、材料系など平成25年は16社あった。

3.委員会報告

(1) 技術委員会

(森委員長)

(1) 規格改定にかかわる件

<リチウム二次分科会>

- ① 国際電池規格委員会の依頼事項の審議

- ・ IEC61960 3rd Edition の CD 案作成。
- ・ IEC62133 3rd Edition の CD 案対応。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ① IEC 62133（小形二次電池 安全）Ed.3 改定対応
Ni系をIEC62133-1、Li系をIEC62133-2に分けて提案。
- ② 市販用ニッケル水素電池 サイクル評価条件の検討
実使用を考慮したサイクル特性充放電条件を検討。

<LIB安全性技術WG>

- ① IEC 62133 強制内部短絡試験、テクニカルレポート作成 審議
- ② IEC 62133 Ed.3 Operating Region（作動領域、安全領域）の審議
- ③ IEC 62133 Ed.3 強制内部短絡試験へのポリマー電池の追加

- ④ UL 提案の Indented Induced Internal Short Circuit (IIISC) 試験の審議

<PSEWG>

- ① 「電気用品安全法の性能規定化に対応するJIS開発」対応

<TC108小委員会活動>

- ① IEC 62368 に記載された電池規格に関する対応
(2) 再利用LIB (LIBのリユース・2 nd ユース) に関する検討

(2) 国際電池規格委員会 (古川委員長)

1. SC21A IEC規格

- ① WG3 IEC61960 リチウム二次電池の性能・表示規格 (単電池・組電池)
② WG4 IEC62133 ポータブル機器用二次電池安全規格 (単電池・組電池)
③ WG5 IEC62619/IEC62620 産業用Li二次電池の安全・性能規格 (単電池・組電池)
-1. IEC62620 (産業用 (自動車用以外) の Li 二次セルとパックの性能規格)。
-2. IEC62619 (産業用 (自動車用以外) の Li 二次セルとパックの安全規格)。

2. IEC 規格 その他 TC 等

- ① TC21 JWG82 IEC61427-2 スマートグリッド用蓄電システム電池の性能・安全
② TC113 (ナノマテリアル)
・標準化提案のタイトルから「Li ion電池」という単語を削除することを合意。

- ・電池電極活物質のナノ材料含有量を50wt%超に、限定することを合意。

3. UL規格

- (1) UL1642,UL2054 の改定 (製造工程監査強化の動き含む)
・新内部短絡試験を UL1642 に規格化する提案。

4. 中国のLi二次電池安全規格

5. 台湾におけるリチウムイオン電池規制 (台湾電安法)

[産業用リチウムイオン電池の国際標準化の動き]

1. 蓄電システム用LIB 規格

- (1) IEC
① 新規 TC TC120 (EES System; Electrical Energy Storage System)
② SC21Aへのドイツ提案 IEC62897 Li電池を用いた定置用蓄電システムの安全要求

2. 自動車用LIB 規格

- ・様々な規格についての内容と状況の確認。

(3) 次世代蓄電池委員会 (中満委員長)

1. 次世代蓄電池委員会の対応

- (1) 政府への要望書の改訂
(2) 今後の活動方針
(3) 経産省・情通課との最近の対応状況
(4) 蓄電システム調査プロジェクト (仮称)

2. 据置 LIB 分科会報告

- (1) IEC 62619 (WG5, 産業用 Li 二次電池安全規格) の対応
(2) IEC61427-2 2ndCD (案) (スマートグリッド用電池の性能・安全) の対応



(3) 船用二次電池の JIS 化の検討

3. 法規WG報告

- (1) 非常用電源設備の告示改正
- (2) 蓄電池設備（火災予防条例）規制単位見直し
- (3) 国有建築物の建築基準書への LIB 蓄電池設備の追加

4. LIB蓄電システムWG報告

- (1) TC120（EES System：電気エネルギー貯蔵システム）の対応
- (2) 概算要求「次世代エネルギーマネジメントビジネスモデル実証事業」

5. その他

- (1) 大規模分散電源関連設備に関するグローバル認証基盤整備事業
- (2) 政府の各省庁へのお願いに関する考え方

(4) 定置用 LIB 普及促進サポート委員会（田村委員長）

1. 活動報告（2013年9～11月）

- (1) 委員会活動
 - ① 次期補助金について
 - ② 補助金対象登録機器および大型カスタム事業者登録状況
- (2) 製品該当 WG
 - ① 蓄電容量の見直しの検討。
 - ② 中型（10～200kWh）カスタム蓄電システムについて

2. 委員会活動計画

(5) 国際電池輸送委員会（栗野委員長）

- (1) 第1回国連輸送38.3試験 大形リチウム電池会議（10/2-4 ワシントン 米国）
 - ・試験 T.4:衝撃試験については、ピーク加速度を小さくすることで合意。
 - ・試験 T.5:外部短絡試験は、温度条件の緩和と抵抗値を小さくする案が提出されたが再検討。
 - ・次回会議は、来年2月にベルギー（ブリュッセル）にて開催予定。
- (2) 第24回 ICAO DGP会議（10/28-11/8 モントリオール カナダ）
 - ・リチウム金属電池単体の航空輸送を全廃の提案は、結論は持ち越し。貨物機輸送は可能性が残る。
 - ・35kg 超のリチウム電池を発地国承認無しで輸送できる提案（ドイツ/PRBA 提案）は、再検討となった。



・リチウム金属電池の航空輸送に関するWG会議は、来年1月末に米国（アトランティックシティ：FAA 試験場）にて3日間、翌週2月上旬にDGP会議がカナダ（モントリオール）にて開催される予定。

(6) PL委員会（大野委員長）

- (1) リスク評価ガイドラインの策定
- (2) 表示ガイドラインの対応
- (3) 電気用品安全法に関する対応
- (4) 模倣、改造、再生電池への対応
- (5) 電池の正しい使い方等に関する啓発資料の作成
- (6) リチウムイオン電池の再利用に関する対応

(7) 業務委員会（佐藤委員長）

- ・販売実績（2012年4Q～2013年3Q）
 - 1) ニッケル水素電池：数量総合計2.5億個（前年比94%）
 - 2) その他アルカリ蓄電池：数量総合計7.8千万個（2013.2Qより集計開始）
 - 3) リチウムイオン電池：数量総合計7.8億個（前年比82%）
 - 4) 小形制御弁式鉛蓄電池：数量総合計3.2百万個（前年比103%）
- ・グローバル総需要予測
- ・2012年4Qから2013年3Qまでの電池別販売実績の報告。
- ・グローバルの総需要予測の報告。

(8) 広報総合委員会（山本委員長）

- ・でんちフェスタを11月2日（土）に日本科学未来館

で開催。今年は、1,735名（前年比+37%）の参加があり、大いに賑わった。手作り乾電池教室、電池〇×クイズ、虎の子レース、クイズラリーを実施したほか、エネルギー体験教室では、バケツ電池、野菜電池、炭電池、人間電池、二次電池などの充実した実験を行なった。

- ・PRキャンペーンについては、昨年に引き続き「電池の正しい使い方」「電池の使用後の取り扱い方」の2大テーマで11月から12月の電池月間前後に展開。また、全国紙（毎日新聞）を使ったキャンペーンを11月に3週連続で実施。
- ・手づくり乾電池教室は、全国24カ所の科学館等からの応募があり、既に24カ所で実施済みで、1月の1カ所を残すのみとなった。

(9) 国際環境規制総合委員会 (小倉副委員長)

1. 地域別状況

1) 北米地区

- ① Call2Recycle Canada がスチュワードシップ計画書を提出。

2) 欧州地区

- ① 改定電池指令、水銀含有ボタン電池と電動工具用ニカド電池の販売禁止の可決。
- ② EPBA “2016 年 EU 廃電池回収目標到達可能性” 報告書
- ③ 欧州委員会、環境フットプリント算定の試行対象に充電式電池を選定。

3) アジア・オセアニア地区

- ① 韓国版 REACH
- ② 台湾、乾電池の回収、処理費に関する公告
- ③ ベトナム、廃棄処理品の回収・処理に関する決定
- ④ オーストラリア、2011年プロダクトスチュワードシップ法

2. 今後の活動計画

(10) 工場環境委員会 (乾委員長)

・各社の環境対応に関する情報交換

- ① ISO14001 の維持・更新状況
- ② 法届出対応
- ③ 地域貢献活動など

・2013年度 環境視察先について

9月19日に実施。行先は「大分エネルギーパーク（八丁原地熱発電所）」

- ・（新テーマ）省エネ原単位の計算方法に関する情報交換
- ・作業環境におけるニッケル化合物の管理濃度規制強化

(11) 再資源化委員会 (高橋委員長)

1. 再資源化委員会活動内容

- (1) 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課への説明資料報告
- (2) 二次電池第2部会（再利用 LIB 検討会）の報告
- (3) リサイクル精練所（小坂精練株式会社：秋田県）視察：10月24日

2. 定置用LIB WG活動内容

- (1) 現在までの状況
 - ① 「定置用リチウムイオン（LIB）蓄電システムのリサイクルについて」（中間報告）の修正
 - ② JEMAとの情報交換、他
- (2) 今後の日程
 - ① JEMA との情報交換、他

4. JBRC報告 (飯田事務局長)

1. 会員状況

・11月現在：304法人

2. 回収状況（4月～10月累計）

- (1) 回収量：対前年同期94%
- (2) 再資源化率（Li-ion）：43%

3. 主な回収強化活動

- (1) 回収拠点数：33,268（10月末）
- (2) 会員企業との太いパイプ構築に向けた取組

4. 広報・イベント活動

- (1) イベント出展
今年度の出展計画 7 件のうち 4 件終了
- (2) 対象別リサイクルキャンペーン
パワーアップ/回収促進/リサイクルクイズ キャンペーン
- (3) 広告・宣伝
新聞、専門雑誌、インターネット広告

以上

「電池は正しく使いましょう」 PRキャンペーン終了

平成25年電池月間キャンペーンイベントの「電池は正しく使いましょう」PRキャンペーンクイズは、11月1日～12月31日の2か月にわたり実施しました。キャンペーン期間中、新聞広告、雑誌広告、携帯サイト、ホームページで広くキャンペーン内容を告知し、全国各地より多数の応募がありました。キャンペーン広告は、①電池のプラス・マイナスを逆さにして使わない②電池をショートさせないなど、10項目にわたり電池の正しい使い方をPRキャンペーンする内容で、期間中に寄せられた応募は、51,270通にのぼりました。

厳正なる抽選の結果、10万円旅行券は、竹下康子様、羽川征子様、丸本香様の3名の方が、1,000円分QUOカードは、大橋祐佳様を始め100名の方が当選されました。



平成26年 1月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	10日(金)	平成26年 賀詞交歓会	会員各社、マスコミ、OB等の約350名の方のご出席。
	10日(金)	平成25年度優良従業員表彰式	12社、14名の優良従業員を表彰。
	10日(金)	広報総合委員会	九州でんちフェスタの会場検討、PRキャンペーン抽選、予算、他。
	23日(木)	統計合同委員会	統計業務に関する規約類の検討、他。
二次電池部会	16日(木)	産業用電池技術サービス分科会	SBA G 0605 改正審議、他。
	16日(木)	業務分科会	統計マニュアルの改訂協議、他。
	17日(金)	充電器分科会	「耐震措置の点検方法について」改正審議、他。
	17日(金)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討。
	17日(金)	資材分科会	共用金型の改造検討、他。
	28日(火)	自動車用鉛電池委員会	需要予測の精度UP検討、他。
二次電池第2部会	15日(水)	据置LIB分科会	IECの原案審議。
	16日(木)	国際電池輸送委員会	ICAO臨時WGへの対応審議。
	16日(木)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
	21日(火)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	22日(水)	法規ワーキンググループ	蓄電池設備基準の変更審議、他。
	23日(木)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
	24日(金)	LIB安全性技術ワーキンググループ	内部短絡試験に関する審議。
	27日(月)	PL委員会	リスクアセスメント活用事例に関する審議。
	27日(月)	次世代蓄電池委員会	産業用Li-Ion電池の普及審議。
一次電池部会	16日(木)	規格小委員会	IEC60086シリーズの検討、JIS C 8513改正審議、他。
	17日(金)	リチウムコイン二次電池 国際規格ワーキンググループ	IEC62133の改訂のための検討、平成26年度活動計画検討。
	17日(金)	リチウム小委員会	リチウム金属電池輸送規制関係等、平成26年度活動計画検討。
	17日(金)	資材委員会	平成25年度活動総括及び平成26年度活動計画検討、他。

11月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2013年11月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	387,710	65,651	96%	105%	3,774,439	663,831	92%	91%
一次電池計	267,100	9,906	94%	96%	2,416,294	81,970	92%	94%
酸化銀電池	72,169	1,287	75%	73%	706,279	12,530	84%	79%
アルカリ乾電池計	124,503	6,065	103%	102%	917,221	39,847	94%	95%
単 三	66,885	2,750	101%	101%	501,547	18,695	92%	94%
単 四	36,761	1,546	106%	106%	277,587	10,533	100%	99%
その他	20,857	1,769	102%	99%	138,087	10,619	92%	92%
リチウム電池	70,428	2,554	108%	100%	792,794	29,593	99%	100%
二次電池計	120,610	55,745	99%	107%	1,358,145	581,861	91%	91%
鉛電池計	3,112	15,723	102%	104%	28,696	144,556	97%	100%
自動車用	2,396	10,375	103%	110%	21,308	87,711	98%	102%
その他の鉛蓄電池	716	5,348	99%	94%	7,388	56,845	96%	97%
アルカリ蓄電池計	44,006	15,276	85%	92%	556,851	183,296	95%	90%
ニッケル水素	36,328	13,993	93%	94%	418,132	164,559	99%	90%
その他のアルカリ蓄電池	7,678	1,283	61%	75%	138,719	18,737	85%	95%
リチウムイオン蓄電池計	73,492	24,746	110%	120%	772,598	254,009	87%	87%
車載用	22,598	12,657	333%	157%	172,709	109,748	292%	93%
その他	50,894	12,089	85%	97%	599,889	144,261	73%	83%

11月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2013年11月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	174,214	32,650	102%	117%	1,873,269	364,164	94%	119%
一次電池計	86,366	1,970	111%	107%	875,373	21,644	102%	102%
マンガン	0	1	0%	7%	1,408	102	21%	63%
アルカリ	3,779	61	104%	114%	45,420	723	88%	87%
酸化銀	47,899	648	108%	109%	445,124	6,463	109%	111%
リチウム	34,611	1,253	117%	114%	381,628	13,591	99%	103%
空気亜鉛	24	1	19%	54%	1,075	13	72%	83%
その他の一次	53	6	112%	6%	718	752	30%	66%
二次電池計	87,848	30,681	94%	118%	997,895	342,520	87%	120%
鉛蓄電池	129	762	75%	105%	1,778	9,663	113%	119%
ニカド	4,250	374	43%	48%	106,474	9,078	82%	84%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	5	0%	209%
ニッケル水素	10,886	4,926	81%	104%	137,052	60,213	104%	119%
リチウムイオン	68,322	16,232	106%	115%	703,771	183,953	87%	112%
その他の二次	4,261	8,386	79%	145%	48,820	79,607	69%	159%
全電池合計（輸 入）	160,740	11,913	109%	112%	1,368,229	122,323	109%	125%
一次電池計	151,194	2,385	109%	136%	1,274,309	20,017	110%	139%
マンガン	18,687	239	115%	116%	156,949	1,680	88%	105%
アルカリ	113,338	1,446	106%	130%	921,252	11,352	112%	133%
酸化銀	602	16	210%	207%	7,075	154	143%	134%
リチウム	15,220	576	129%	158%	145,685	5,487	132%	165%
空気亜鉛	3,276	56	112%	137%	42,320	647	97%	118%
その他の一次	71	51	12%	245%	1,028	697	29%	296%
二次電池計	9,546	9,528	108%	107%	93,920	102,306	108%	123%
鉛蓄電池	741	2,684	100%	109%	7,020	26,361	93%	99%
ニカド	89	143	95%	95%	1,574	2,095	37%	109%
ニッケル鉄	0	0	—	—	2	10	473%	1354%
ニッケル水素	2,192	466	100%	82%	20,017	5,052	112%	96%
リチウムイオン	4,852	5,519	92%	117%	48,764	58,212	98%	157%
その他の二次	1,672	715	307%	72%	16,543	10,575	224%	87%